

れの位置でしいの実拾い開始。

落葉や草をかきわけて丹念にさがしている子、一つ拾っては先生に見せに来る子、おかささんへのおみやげだと、手に一ぱいのしいをよろこんでいる子、しい拾いをやめて、山道や雑木林を走り廻っている子、落葉集めをしている子、

あちらこちらに歓声がある。ピリピリピリ、「おやつ頂きましよう。」

「あ、うれしい。」
「先生、この紐ほついて。」
「水筒の蓋とって。」
「柿むいて。」

先生は実に忙がしい。
三十分ばかりして、ピリピピ

「お弁当も頂きましよう。」
またしばらくがわめきが始まり、おすし、おにぎりなど、それぞれの

お弁当に舌鼓打つ。
お弁当を食べ終ると、すぐまたしいの実を拾っている子、いちようやかえでの葉っぱを集めている子、築山にのぼって遊ぶ子、経堂

のまわりでかくれんぼする子、木立に入って「まつたけだ、まつたけだ」と叫んでいる子、先生と石畳のお堂で仏さんをおがんだり、庫裡の前の魚板に見入っている子、用意してきたクレパスで写生している子。わたしたちも、まだまだおりたいようだけど、時計はもう一時半。

ピリピリピリ「集まれ。」
「なーんだ、もう帰るのか。」
「先生、もつとおろに。」
「先生、また来うな。」
「わたしこんどの日曜におかさんと来うや。」

みんなでごみを拾って一ところに集める。
帰りはふたりずつ手をつないで歩くこと、おやつを食べながら歩かないこと、家の前まで来たら、先生さよならをして帰ることなどを約束して遅く着いた組から順次出発。

今までのように、年小組にもえらいえらいと言って足をひきずる子もなく、一回元気に二時過ぎ園に帰着。

「先生、きのうはよかったな、また連れてって。」

「バス素敵やったな。」
「おかささんにしいをいってでもろて食べたに。」

「わたしも、百あったに。」
自然ときのうの楽しかったことが話題にのぼる。

「遠足にいったこと、絵に書きましようか。」

天の橋立遠足の記

松谷郁子

昭和〇年当市で初めてトレイラーバスが、登場した頃のことである。幼稚園の前を走ることにより、

たちはかけ出してこれを見送る。好奇と羨望の交錯した眼。このバスはほとんどわが園の前を通る時は座席があいている。何とかなら

ないものかなあ」と考えた私は、バス会社に交渉、承諾を得て駅前までの三分間ほどをのせたのが乗物による遠足のはじまり。それが

「うん、書く。書く。」
みるみる中に、バスに乗っているところ、しい拾い、山門、魚板、お堂、おべんとう、帰り道など、

いろいろな絵ができあがった。うまく組合せたら一連の紙芝居ができあがり、拍手喝采の中に、きょうもまた楽しい一日が終った。(三重大学付属幼稚園)

幾変更して現在の天の橋立遠足となったのである。
○事前の注意
普通の遠足以外とくに汽車遠足として

・順序正しく
・窓から頭や手を出さない
・座席のかけ方 など
「汽車やバスに乗る時は……うたもともに指導」
○実施に当って私たちの配慮

・どの子も一ようのように楽しい一日であれ

・収穫も多かれ

・待つ喜の期間も一日も長かれ

十月に入るとカレンダ―をみせて、もう幾つ寝たら汽車遠足と楽しい夢を早くからもたせ、これを機会に各種乗物への関心をも高め、日ごとのりもの遊びへの発展にも配慮。当日は万全を期しての各学級委員四人の付添も、本日に限り、個人のお母さんでなくクラスみんなのお母さんであることを、母子ともによく認識、その線に沿った行動をとる。

◆当日
いよいよ出発。まだ一度も行ったことのない子もあり、経験ずみの子も幼稚園として一しよに行くのは、また格別にうれしさも増加するようす。話声もいつもよりい

つそういきいきとはずんで駅名を読み合い、窓外の道行く人に手をふっては呼びかけ、とんねるを数え上げるなど、よろこび満ち溢れる遠足風景。同乗の一般人の顔もおのずとほころびる始末。
やがて駅において駅前に掲げられた絵図の説明をうけ、往く道々、浮きつ沈みつするくらげを物めづらしく眺めたり、すごい貝の群生に目をみはり、回転橋を渡って砂場で少憩、楽しい昼食の後、貝ひろいに夢中になったり、キャッキヤツと歓声をあげつつ波とおっかけごっこに興じたり、大自然の砂場で余念なく砂遊びをしたり、一かどの力士気どりでのお角力ぶりをお母さんたちにみていただいたり、たのしい遊びのいつ果てるとも知れぬ一日。

やがて再び汽車の人となり舞鶴の駅に降りたてば、早くも改札口に並ぶ顔、顔、顔、何れも朝送り出したわが子を案ずる表情、お母ちゃんを手をふる子、だまってに

つと笑いかける子、などなど、それぞれ

の表情に接して、や々と安

堵の胸をなでおろすお母さんたち。

「どうもありがとうございまして」の母の声

「先生さまなら」子どもたちの声を耳朶に残しつつ、私のおもい多

く。ことに

出迎えをうけなかつた子のひとりもなかつたことを幸にお

る。

（舞鶴幼稚園）

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

合同運動会

菊田との代

もう。

日ごと登園する子どもたちの背後の親心をおもうことまた切。

兄弟ともにかえつた子、母の手に伴われて帰つた子、父の自転

車にのってかけていった子、どの子ども

もどの子も、今宵の夕餉よ

かれ、今宵の夢よ円かなれと念じ

る。

（舞鶴幼稚園）

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」

「大学の運動場には珍しいでしうね」